

しおんだより VOL.30



当院オリジナルのACPノートができました

ACPという言葉、最近では、新聞やテレビでも出てきます。英語のAdvanced Care Planningということの頭文字を取ったものです。要するに患者さんやご家族と医療者が繰り返し話し合っ、患者さん自身がどんな治療を受けたいのか、決めて頂けるようにサポートする過程を指す言葉です（スマホなどで調べて頂ければ、日本医師会のHPにも解説されていますので、詳しくはそちらをご覧ください）。

患者さんが、ご自身が受けたい治療や生き方について改めて考えて頂き、それらを私たちも良く知ることが、治療にご満足いただくには不可欠なのです。

病気は、多くの場合、突然訪れます。「まさか自分が！」と思った瞬間から、あれよあれよという間に治療が進んでいくということも少なくありません。そして、医師の説明も完全に理解していない中で、「どうされますか？」と決断を迫られても…というケースが少なくないのではないのでしょうか。備えあれば憂い無しということわざもありますが、あまり時間や状況が切迫していない状況で考えていただくことが大切です。

今回、当院では、医師・看護師をはじめとする医療スタッフから有志が集まり、1年近い期間をかけて、ACPノートを作成しました。イラストもスタッフお手製です。是非、お手にとっていただき、自分が受けたい治療について考えていただければと思います。

内科・循環器内科に池田俊太郎先生が着任されました



豊富な経験と穏やかな口調は当院がめざす医療の方向性にマッチしていると感じます。

本年4月1日から、池田俊太郎（いけだ としたろう）先生が当院の内科・循環器科に赴任されました。昭和59年に大阪大学医学部をご卒業後、第一内科に進まれ、長く循環器疾患の治療に取り組まれてきました。その後、地域医療の現場で高齢者を中心とした医療にも取り組まれてこれ、当院で診療していただくことになりました。

松田暉名誉院長、竹内麦穂副院長はともに心臓血管外科が専門ですが、循環器内科がご専門の池田俊太郎先生が加わることで、心不全治療への体制はさらに強化されます。それとともに、高齢者の方で循環器疾患をもたれている方は多いので、入院・外来でも多くの患者さんに質の高い医療をご提供できる体制も整えることができ、院長としては心強いかぎりです。

木曜日午前の外来を担当されます。皆様よろしく申し上げます。

お掃除スタッフさんのおかげで、今年もきれいに咲きました

以前の「しおんだより」でもお伝えしましたが、当院のお掃除スタッフの方（妙齢のご婦人です）が胡蝶蘭のお世話をしてくださっています。

当院が改装した時にいただいた胡蝶蘭ですので、もう6年近く前のものですが、一旦、花が全て落ちてしまったものを、大切にケアしてくださっています。

ご本人は「普通にお水をあげているだけで…」と謙遜されるのですが、本当に毎年、綺麗な花を咲かせてくれます。医局前の廊下はいつも殺風景なのですが、やはりこういったお花が咲いてくると、ぱっと雰囲気も明るくなります。。

今年も、桜が咲き始めたころから、つぼみが膨らみ始めました。その後、毎日1つか2つずつ咲き始め、今では、色目の異なる花が咲いています。これからGWにかけて、日差しも強くなっていくなかでもっと咲いてくれると思います。日々色々ある中で、とぼとぼと医局に帰ることもあるのですが、そんなときに元気をもらう一瞬です。（文責：狭間研至）



今年も、胡蝶蘭が開花しています。いつもは殺風景な廊下が明るいです。

しおんだより 第30号 発行日：令和5年4月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp